

館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 11 月 15 日 (土)

発行 館長 加藤 智 一

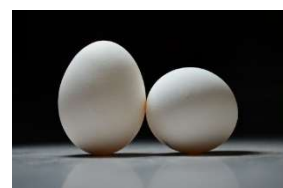
物価の優等生

2025. 11. 14 朝日新聞天声人語を読んで、思うことありまして、一筆書かせていただきます。先週まで、霞城セントラルの自販機は真っ青でしたのに、今日「缶コーヒー」を求めにいきましたら、何と全面真赤。自販機も紅葉するのかなと思いきや、冷たい飲み物が温かい飲み物へと変化していたのです。来週の天気予報でも、雪のマークが出てきました。山形は冬へ向かって季節は急激な変化をとげているようです。さて、突然ですが、尾崎豊氏が「15 の夜」をリリースしたのが 1983 年。「盗んだバイクで走り出す、行先も解らぬまま・・・」の歌詞で有名ですが、もう少し先まで聞くと「闇の中ぽつんと光る自動販売機、100 円玉で買える温もり、熱い缶コーヒー握りしめ・・・」というフレーズが。1983 年当時、缶コーヒーは 100 円だったんだ。現在は、140 円から 160 円といったところでしょうか。コーヒー豆の値段が上がっているなど今年になって実感していたところだけに、「缶コーヒー」も致し方ない気がしていますが、逆に、40 年経っても 40～60 円程度しか上がっていなかったのか！と驚きました。実際のところ、1980 年代のインスタントコーヒーは「ネスカフェ ゴールドブレンド」100g 瓶入りで 300～400 円程度で販売されていました(1 杯あたり約 10 円前後の計算)これが、2025 年現在、全国の平均価格は 100g あたり 1,103 円で、地域によっては 1,400 円を超える都市もあります。上昇率で言えば、約 1.5～2.5 倍といったところでしょうか。ですから、「缶コーヒー」は頑張っていたのです。

それはそうと、昔から物価の優等生は、「卵」と相場が決まっていたましたが、現在はどのようなのでしょうか。結論から言えば、「卵」の価格は 1983 年と比べて約 1.5～2 倍に上昇していますが、他の食品と比べるとその上昇幅は比較的緩やかです。1983 年当時、東京市場の M サイズ卵の平均価格は 1kg あたり約 325 円でした(1 個あたりに換算すると、約 13～15 円程度)。これに対して 2025 年現在の卵価格は、東京市場の M サイズ卵の価格で 1kg あたり 350～400 円前後で推移しています。つまり、1 個あたり約 20～30 円程度です。飼料価格の高騰や鳥インフルエンザの影響など、心配な要素は多々ありますが、十分に「物価の優等生」と言えるレベルではないでしょうか。これを上回る「物価の優等生」はあるのか？

現在、物価の優等生として注目されるのは、「即席

麺」そして「冷凍食品」です。袋麺やカップ麺は、1980 年代から現在に至るまで、価格の上昇が比較的緩やかで、1 食あたり 100～200 円程度で購入可能。原材料の小麦価格は変動するものの、製造技術の効率化や大量生産によってコストが抑えられてきました。また、「即席麺」は保存性が高く、調理も簡単で、災害時の備蓄や一人暮らしの食事としても重宝されるため、需要が安定しています。企業側も価格維持に努めており、消費者の信頼を得ています。また「冷凍食品」は、近年の冷凍技術の進化により、味や食感が大幅に向上し、家庭用だけでなく外食産業でも広く利用されています。冷凍うどん、チャーハン、餃子などは、1 食あたり 100～300 円程度で購入でき、価格の上昇も緩やかです。「冷凍食品」は、原材料の調達から製造、流通までの工程が効率化されており、価格安定に寄与しています。さらに、食品ロスの削減にも貢献しており、サステナブルな選択肢としても評価されています。



まとめると、「物価の優等生」と言われるものには、いくつかの共通点があります。

- ① 大量生産・流通の効率化(スケールメリットを活かし、コストを抑えている)
- ② 保存性の高さ(食品ロスを減らし、安定供給を可能にしている)
- ③ 企業の価格維持努力(消費者の信頼を得るため、値上げを最小限に抑えている)
- ④ 生活密着性(日常的に消費されるため、需要が安定している)

これらの要素が複合的に作用することで、価格の安定が実現されているようです。物価高騰が続く中で、こうした商品は家計の味方であり、企業の工夫と技術革新の成果でもあります。今後も、消費者のニーズに応えながら、価格と品質のバランスを保つ商品が「優等生」として評価されていくことでしょう。